

1 自己評価

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500022		
法人名	有限会社 グループ春の日		
事業所名	グループホーム 春の日 (自己評価・チューリップユニット)		
所在地	千葉県千葉市緑区誉田町1-794-17		
自己評価作成日	平成21年11月26日	評価結果市町村受理日	平成22年2月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成21年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業理念に掲げている「ゆとり」をモットーに、職員も生活環境の一部としてとらえる。主体性を持つ(見る、待つ、見極める) その決定を尊重する。居場所を感じてもらう。地域に溶け込み社会参加をする。職員はいつも意識しながら関わっている。
 ・毎月、外出レク、オヤツ作り等のイベント行事があり、入居者様、職員共に楽しみのある生活を送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

グループホーム春の日 自己評価(チューリップユニット)

自己評価 (チューリップユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ホーム内でのミーティング時に当ホームの理念と介護のあり方を一人一人が見つめ直す機会をもった。今後も定期的に行っていききたい。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・日常的な交流まではいかないが、地域の夏祭りや敬老会などに参加させて頂いたり、当ホームでご近所の子供達を招き、ご入居者様と共に流しそうめん大会を行っている。今後も日常的に交流が図れるよう工夫していききたい。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議の開催もまだ至らなく、地域の方々へは貢献できていない。ただ時折、地域の方々から相談等でお越しいただくことがある為、その際は個々に対応させていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・21年度では、8月に行われた施設行事の際に運営推進会議を行ったのみで、定期的な開催には至っていない為、報告等はできていない。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・担当区域内の社会援護課、介護保険課、障害福祉課とは毎月顔を合わす機会がある為、何かと相談にのっていただいている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしないということを基本方針とし、定期的な勉強会を実施し、職員間も共通認識をもっていただいている。 ・千葉市主催の身体拘束・高齢者虐待の研修会等にも順次職員も参加し、知識を高めている。		

グループホーム春の日 自己評価(チューリップユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・千葉県高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修を受けた職員が、ホーム内研修を行い、一人一人の日頃の介護を振り返る機会を作った。今後も定期的に行っていききたい。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・各研修会、勉強会等の参加はできていないが、万一必要になるかもしれないことを想定して、地域包括支援センター等から情報はいただいている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・実施できている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・管理者、職員側へは意見等表せる機会はあるが、外部へ表せる機会はまだ設けられてない。(現在、介護相談員の受入を要請中)		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回の業務ミーティング、個別面接等で意見を聞き、改善できる所は早急に改善できるように努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職場は管理者が作るものではなく、現場の職員が作るものとしている為、職員の個性、経験による実践を出せる場でもあるので、経験豊富者、そうでない者皆、創意工夫して働いていただいている。 ・介護処遇改善の制度も有効活用させていただき、職員の手当て等の幅を広くしていきたい。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・定期的に外部研修等へ参加していただいている。 ・月1回の業務ミーティングの中でも年間研修計画をたて、職員研修を実施している。		

グループホーム春の日 自己評価(チューリップユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム連絡会等に参加させていただいていることで、交流の場は設けられてういる。 ・近隣グループホームとの職員交換研修会を実施予定。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居後、ご本人とコミュニケーションを図り、信頼関係を徐々に作りながら、ご本人の生活に対する困っていること、不安なことや希望を伺い、できるだけそれに沿えるようにしていくことで、ご本人が少しでも安心して生活することができるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前に、生活に対する意向を確認し、入居後はご本人の生活ぶりをご報告すると共に、一緒に見て頂き、これまでの生活を教えていただき、生活の意向を確認しながら、徐々に信頼関係を築いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居依頼があった際には、現在の生活状況、サービス内容、何故グループホームが必要と思ったのか、ご本人が理解されているのか？身体的状況にもより、本当にグループホームでよいのか？その他のその方にあったサービスがあれば、ご紹介、相談にはのるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にスタッフは、ご本人、ご家族の立場に振り返り、一方的な立場をとらないようにできる限り、ご本人を尊重した関わりを行っている。関わりの中でのいるいな人生経験や知恵を襲えていただく。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・入居契約時に、ご家族のできるだけ面会に来ていただくことや、ホームとご本人、ご家族は3者の協力があって支え合っていることを説明したり、年3～4回の春の日新聞を郵送し、近況報告を行うことで、できるだけ関係を断ち切らないようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご友人と会うためにご家族の力をかりて、外出をしたり、今まで暮らしていた家に外泊をしているご入居者がいる。ご家族のみならず、ご友人が当ホームを訪ねて来られることもあり、自由にしている。		

グループホーム春の日 自己評価(チューリップユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ご入居者同士の関係を一人一人確認し、それぞれが、関わられるようスタッフが橋渡しをしたりしている。中には、ご入居者同士の関わりが難しい方もいる為、その際には、スタッフができるだけコミュニケーションをとり、関わりを増やしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去された後も、その後の生活状態を病院、施設、在宅を問わず、確認させていただきようとしている。お会いするのが、難しい方であれば、ご家族の方にお電話でお伺いすることもある。その後の生活に不安等を感じているご家族、ご本人からのご相談も積極的に応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご本人及びご家族に現在の暮らしや、生活に対する意向を施設サービス計画書や介護計画書の見直し時のみではなく、日常的な関わりの中からも引き出す協力はしている。困難な場合は、ご家族にご本人の暮らしぶりを見たり、説明させていただき、できる限りご本人の意向として、聞くよう心掛けている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前にご自宅に伺い、生活環境を見せて頂いたり、なじみの生活道具を持ち込んで生活をしている。 ・入居後も、ご本人やご家族にこれまでの生活ぶりを随時伺っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・認知症により、ご自身の身体不調を訴えることが困難な方もいるため、日々の生活ペースや行動、ご本人のADLや認知面を日々観察している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・3ヶ月に1回、介護計画書、施設サービス計画書のモニタリングを行っているが、ご本人、ご家族が参加することはまだまだ少ない。現場から様々な意見を集め、検討している。今後はご本人、ご家族にもできるだけ参加して頂けるよう調整していきたい。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の生活の状況だけでなく、いつもとは違う状態の時や、ご本人の言葉と認知面について、時計記録で個別に記載している。それをスタッフが、見直すことで日々の変化がわかると共に、介護計画書等のモニタリング時にも活用することができている。		

グループホーム春の日 自己評価(チューリップユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の要望、ご家族の要望等に関しても、相談、援助は柔軟に対応している。 例(通院介助、公的手続き、買物、ドライブetc)		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・民生委員、ボランティアの方々は時折施設に顔を出していただき、関わりをもっといただいている。(納涼祭、敬老会等のお誘い等)		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご本人、ご家族の意向に沿って、ご家族の協力も得ながら、納得された病院に受診をしている方もいる。 ・病院と医療連携体制を組みご入居者全員が月2回の往診を受け、健康管理をしていただき、緊急時は訪問看護ステーションを通した病院に連絡し、相談できる体制をつくっている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護職員は日々の生活の中での変化や、体調の変化を伝え、介護職員と共に観察し、病院受診が必要か検討してもらっている。また、訪問看護ステーションとも医療連携体制を組み、月2回訪問し、健康管理を行って頂くとともに、24時間オンコール体制で相談できる窓口がある。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院通院時、管理者やスタッフが同行させて頂き、情報交換や信頼関係の構築を図っている。 ・病院入院時は、お見舞いと状況確認のため、病院に行くだけでなく、早期に退院できるように情報交換をしながら、受入れ準備を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化と看取りに対する方針を、今年度作成し、すでに1人がんの末期の方の支援を行った。体調不良時等常時ご家族と医療連携を取っている病院と当ホーム管理者と3者ないし、4者で話し合いの場を作り、グループホームでできること、できないことを説明し、ご本人、ご家族の意向を尊重した対応を行っている。今後も継続していきたい。		

グループホーム春の日 自己評価(チューリップユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは千葉県消防局主催の上級救命講習の受講を順次行っている。 ・急変時のフローチャートを電話の脇に掲げてあり、常時確認できるようにしており、急変や事故発生時はそれに沿い、行動している。又、スタッフは高齢であるご入居者の身体はいつ何が起きてもおかしくないという認識を常に持って万が一の時に備え観察している。 		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の消防訓練も器具の使用方法、非難方法、連絡の仕方、消防署立会い等いろんな組み合わせを想定して研修を行っている。 ・課題として、地域との協力体制を築いていきたい。 		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の個性を大切に、人生の先輩として、敬い、尊重しながら、声掛けに充分配慮し関わっている。 ・個人情報は、鍵のかかる棚で管理し、外では口外しないこと、持ち出さないことを徹底して行っている。 		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・何かを行う際は、声掛けをするとともに、ご本人に意思を確認することを行っている。声掛けに同意が得られない場合は再度その必要性を説明し、意志を確認するが、こちらの一方的な押し付けにならないよう注意しながら関わっている。 		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご入居者それぞれの生活ペースや生活習慣を見守りながら、思い思いの生活を送ることができるようにしている。 		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・お小遣いの中から、スタッフと一緒に衣類を買いに行くことや、入浴時の身支度がお1人では難しい方にはスタッフと一緒に選び、おしゃれをも楽しめるようにしている。身だしなみがご自分で整えることが不十分な方は何気ない声掛けと羞恥心に配慮しながら、身支度を整えることもある。 		

グループホーム春の日 自己評価(チューリップユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・当ホームは厨房スタッフがいる為、食事の準備はご入居者は行っていない。一時期スタッフもご入居者と食事を摂っていたが、現在は行っていない。片付けはご入居者がスタッフと共に、行って頂くことが多い。月に一度行事としてご入居者と調理を行っている。今後は再度ご入居者と一緒に食事をとっていきたい。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1人1人の1日のだいたいの水分摂取量を把握し、特に入浴や外出、季節や身体状況に応じた必要量と思われる量を摂取することが、できるよう声掛けをしている。 ・3食の摂取量と食事の好みやこれまでの生活習慣に合わせた配膳を行っている。栄養バランスは食材会社様に献立と食材納品をお願いしているため、バランスはとれていると思われる。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・ご自分でできる方は、それぞれ行っていただき、声掛けや介助が必要な方はこちらで介入させて頂いている。 ・毎週1回、訪問歯科が来所して、口腔内のチェックをして頂き、スタッフと連携して日々のケアにつなげている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人一人の排泄状態とできること、パターンなどを観察し、ご本人、ご家族の意向を踏まえて、ご本人のできる力とその人に合った排泄方法を検討し、介助している。 ・介助する際は自尊心に配慮した声掛けを行い、ご本人ができることを行っていただき、困難なところを介助させていただいている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘に対して、当ホームの特徴でもある長い廊下を生かして、運動を兼ね歩行練習を行って頂いたり、気分転換を兼ね、散歩に出かけるだけでなく、毎朝ラジオ体操を行っている。 ・食事、おやつ、入浴時の水分補給以外にも、居室でもご自分で好きな時に飲めるようポットを使用している方もいる。 ・義歯のない人に刻み食を提供している。		

グループホーム春の日 自己評価(チューリップユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・原則として、週3回の入浴が可能だが、入浴に対してご本人、ご家族の意向を確認した上で、回数や内容を個々に決めている。又、その日の体調に合わせて、入浴日の変更も臨機応変に行っている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入居前の生活習慣を、入居時にご家族から伺うことや、一人一人のホームでの生活のペースを見守り、支援している。 ・眠れない時や不安を話す方には、スタッフと一緒に話しを伺い、安心して眠ることができるよう、一人一人に対して支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・各スタッフがご入居者の疾患と現在の治療状況、内服状況について、申し送りや受診記録で確認している。 ・内服は全て事務所で一括管理し、内服時間ごとに、セットされた内服薬を確認し、内服している。 ・一日24時間の生活状況とご本人の体調不良時の訴えの特徴をつかみ、症状等の観察を随時行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人一人の生活歴からホームでも役割としてできることをご本人と相談しながら行っている。 ・気分転換と運動を兼ねて、散歩や車で外出を行っている。 ・行って頂いた際には、ご本人のやりがい生まれるよう声掛けの工夫を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・買物や散歩等の外出の希望がある場合は、できる限りその時に対応するようにしている。 ・外泊や遠方への外出の希望がある場合は、ご本人、ご家族と相談し、ご家族が可能な範囲でお願いしている。		

グループホーム春の日 自己評価(チューリップユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> お小遣いの自己管理が可能な方は、ご自身で所持している。 自己管理が困難な人は、ご本人、ご家族とも相談し、ホームで預り管理をしている。 自己管理困難な方の買物は、ご本人ができることをスタッフが確認し、社会性を保つ上でもスタッフが見守りし、できないことに対するの支援を行っている。 		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 自由にかけることができる電話はないが、ご本人が希望される時には、随時対応している。(手紙も同様) 		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ベランダやリビング内で朝顔やチューリップなどのプランター栽培をご入居者とスタッフと共に行い、季節感、生活感を味わっていただいている。リビングの日めくりカレンダーの下にも、折り紙や塗り絵、貼り絵で季節感を感じられるよう、創作物を月1枚作り、掲示している。 共有の空間はわかりやすい物の配置に工夫し、スタッフも生活環境の一部であることへの認識をしながら、関わっている。 		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> リビングはいつでも開放しており、誰でも好きな時間に使っていただくことができるようにしている。時々、時代劇が好きな人が一緒にDVDを見たり、トランプゲームなどのレクリエーションをしたり、1人で大きなTVでお気に入りの番組を見たりすることが、できるようにしている。 		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 入居契約時に、なじみの家具の持ち込みを依頼している。使い慣れたを使用して頂く事で自分の部屋であることを実感して頂く事ができる。 新しい物を購入する際は、できるだけご本人と一緒に選ぶことで選ぶ楽しさだけでなく、好みのものを使い、安心して生活することができるように、支援している。 		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の日々のADLを観察し、見守りを行いながら、居室内の環境をご本人、ご家族と相談し、できるだけ自立した生活を行うことができるようにしている。 		